

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

# KENBI LETTER

ケンビレター

no. 106

2020.summer

浦上コレクション 北斎漫画

2020(令和2)年8月10日(月・祝)～9月27日(日)

「わにざめ」、「くじら」、「あおりいか」、「ふか」——これらは江戸後期の絵師・葛飾北斎の代表的版本『北斎漫画』に描かれた魚たちです。

『北斎漫画』はいわゆる「絵手本」、当時の絵師たちにとって北斎に直接習わずとも北斎の画風を学べるリモート学習コンテンツでした。

自然を鋭く観察して描いたリアルで実用的な図と並んで、空想やユーモアに富んだ図も多く収録されており、その幅広さと大胆さが『北斎漫画』の大きな魅力となっています。

Exhibition Information

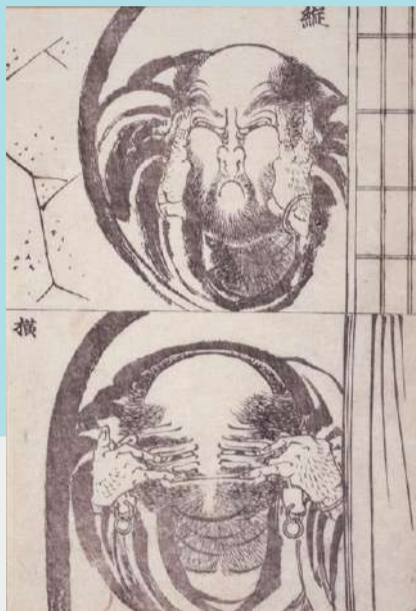
# 北斎漫画

浦上コレクション



〈怨霊と祐天和尚〉「北斎漫画」十編

今年の夏は『北斎漫画』を展示します。言わずと知れた江戸時代の浮世絵師、葛飾北斎が版下を描いている絵手本<sup>※</sup>です。今では世界的に最も有名な日本の絵師と言っても過言ではない北斎ですが、実際にはどのような人物だったのでしょうか。明治中期に飯島虎心が著した北斎の伝記『葛飾北斎翁伝』を読むと、北斎の「絵を描く」ことへの執着心と向上心の強さに驚かされます。北斎は一生、進化し続けた絵師だったのです。『北斎漫画』はそんな北斎の真骨頂をうかがわせる重要な絵手本のひとつと考えられています。『北斎漫画』が他の北斎絵手本と一線を画するのは、北斎の死後までを含む66年もの長きに渡って版行されたというその出版物としての息の長さ、その影響範囲の広さです。狩野派に学んだ河鍋暁斎が北斎に私淑し『北斎漫画』のパロディを描いていたように日本国内では流派を超えた影響力を持ち、幕末以降のグローバル化によって日本とつながったヨーロッパではパウル・クレー、エドガー・ドガなど錚々たる面々が『北斎漫画』の図をその制作の中で引用しています。このように時代も国境も超えて親しまれた『北斎漫画』には、今に生きる私たちにも感じ取れる楽しさ、面白さがたくさんあります。全15編中に4,000点近くにも上る膨大な図が掲載されており、誰がそれを眺めるかによってぐっとくる図がかなり違うのではないのでしょうか。たとえば、絵を見るのが好きでいつまでも眺めたいと思う人、絵の描き手として刺激を受ける人もいるでしょう。江戸時代の人々の様子や空気をうかがえる絵画史料として興味を持つ人もいれば、逆に現代のアニメーションとの共通点を見出せる点に魅力を感じる人もいます。『北斎漫画』の面白さは今も昔も見る人の数だけあります。ですから、できるだけ幅広い多くの方にこの展示を見ていただきたいと思っています。展示室では、図が見やすいように和綴じ本15冊から200図を額装してご紹介します。それらと一緒に全15編の初摺本も展示しますので、古い書籍としての味わい深さも感じていただけます。展示会の初日の8月10日には本展監修者、本展出品作の所蔵者であり世界一の『北斎漫画』コレクターである浦上満さんによる講演会も予定しています。ここでだけ聞けるお話をぜひお聞き逃しなく。 文・中谷有里(当館学芸員)



〈縦・横〉「北斎漫画」十二編



〈潜水瓶と水中遊泳〉「北斎漫画」四編

※漫画という名前がついていますがその意味するところは現代のマンガやアニメとは異なります。

**2020(令和2)年8月10日(月・祝)～9月27日(日)**  
 9:00～17:00(入場は16:30まで) 会期中無休

観覧料：一般前売960円、一般当日1,200円(960円)、大学生850円(680円)、高校生以下無料  
 \*( )内は20名以上の団体割引料金。\*年間観覧券所持者は無料。  
 \*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。  
 主催：高知県立美術館、KSSさんさんテレビ 後援：高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社  
 KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シテFM放送  
 監修：浦上満(浦上蒼穹堂代表)  
 企画協力：山形美術館、株式会社アートワン

高知サマープロジェクト2020

## マテリアル・ミュージアム 高知で見つけたステキな廃材

2020年8月11日(火)～9月6日(日)

クリエイティブリユースについて聞いたことはありますか?お店や事業所、アーティストのアトリエなどから日常的に生み出される廃材や端材を新たな資源として見直し、創造力を使って生まれ変わらせる活動です。これまで課題となってきた創作室の活用や、カルチャーサポーター(当館ボランティアスタッフ)の新しい活動の一つとして、クリエイティブリユースを採用した新プロジェクトをスタートします。今回は、岡山県倉敷市の玉島にクリエイティブリユースの拠点「IDEA R LAB」を創設・運営している大月ヒロ子さんを講師に迎え、「マテリアル・ミュージアム」に向けたワークショップを行います。廃材の調査、収集、分類・整理、活用…そのサイクルはミュージアムそのものです。まずは新しい生活様式を踏まえつつ、コレクションとなる廃材を集めるまち歩きからはじめます。これまで気づけなかった高知の「ステキ」を一緒に見つけてみませんか。 文・長山美緒(当館学芸員)



上/江戸時代の蔵を活かした「IDEA R LAB」  
 下/マテリアル・ライブラリーで作業中の大月さん

＜高知サマープロジェクトとは＞  
 展示会や舞台公演以外の美術館の第三の活動として、1階第4展示室を会場に展開する夏休みの特別企画です。

## 石元泰博 生誕100年記念展準備中!



旧蔵資料調査の様子。くしゃくしゃに折られた書類一枚一枚にも、石元さんの人生が刻まれているような重みがあります。

1921年生まれの高知ゆかりの写真家・石元泰博さんは、もしご存命であれば来年の6月14日が100歳のお誕生日。今年は、この記念すべき生誕100年に先駆けて、東京都写真美術館と東京オペラシティ アートギャラリーにて個展が開催されることになりました。石元さんの半世紀以上に渡る多彩な活動がそれぞれ異なる切り口から紹介される予定で、全国の美術・写真ファン大注目の展示会となること間違いなしです。そして、年明けには当館にて、両美術館での内容を再構成し一挙に公開します。高知内外のたくさんの方々に、石元作品の世界を存分に堪能いただく機会になったら嬉しいです。 文・朝倉芽生(当館学芸員)

## 企画展 企業あつめてのこす 収集→保存 映像制作の裏側

新型コロナウイルス感染予防対策のため、会期中で一時休止となった「収集→保存 あつめてのこす」展。それならそうと何かしらアクションを起こしたい!ということで、休止中の展示会の内容を少しでも多くの人に伝えようと、会場風景をナレーション付きで紹介する動画を作成することになりました。しかし、こうした趣旨の動画を作るのは当館でははじめて。当初はどのように製作を進めたいのか想像もつかず、頭を抱えました。結局、肝心の会場撮影は一度では済まず、映像撮影・編集を担当して下さった四万十町在住の南木元空さんには何度も来館していただき、様々なカットを撮ってもらうことに。ナレーションは筆者とN学芸員の二名で担当しましたが、台本を読むのは想定以上に難しく悪戦苦闘…したのは筆者だけで、N学芸員はアナウンサー顔負けのナレーション力を発揮していました。四苦八苦の果てに出来上がった動画は今もご覧いただけます。展示会には来られなかったけどどんな内容だったかが知りたい方、いらしたけど会場の雰囲気をもう一度思い出したい方、N学芸員のナレーション力が知りたい方は、ぜひ下のQRコードからご覧ください。 文・塚本麻莉(当館学芸員)



会場を撮影する南木元空さん



動画はこちらから!

## 美術館の新型コロナウイルス対策

今も不安な状態が続く新型コロナウイルス。美術館も開館に伴い感染防止対策を行ってきました。各受付にはアクリル板の設置、近距離での対応が必要な場所にはフェイスシールドの準備、入館の際のマスク着用と手指の消毒のお願い、ソーシャルディスタンスを保つための工夫など……。しかし、対策を取っているのはどこも同じ。マスクや消毒液、アクリル板、ビニールシート、どれも品薄で購入も難しい状況です。美術館にある物で代用できないか意見を出し合い、試しながら作業を進めました。またこれまで各展示室で行っていた観覧券の発券やもぎり、販売はすべて総合案内で行うことになりました。これまでと勝手が違うこともあり、お客様にはご不便をおかけすることもあると思いますが、安全に作品鑑賞ができるようにご協力をお願いします。 文・当館解説補助員

休館期間：2020年3月6日(金)～3月22日(日)、4月10日(金)～5月10日(日)

# MUSEUM HALL INFO

美術館ホール お知らせと報告

## NEWS 夏の定期上映会



©円谷プロ

真夏に味わう SF&ホラー

## ～ウルトラQ、ウルトラマン、大林宣彦～

◎上映日：2020年8月15日(土)、16日(日)

言わずと知れたウルトラマン。悪い怪獣から人類を守るヒーローのイメージをお持ちの方が多くと思います。そんなウルトラマンの、正義だけとは言い切れない姿を描いた作品があることをご存知でしょうか？今回は、そんな衝撃作に加え、ウルトラマンの原点の要素が詰まった日本初の空想特撮ドラマ『ウルトラQ』、今年惜しまれつつ亡くなった名匠・大林宣彦監督の知られざる傑作をお届けします。『ウルトラQ』の「2020年の挑戦」には、2020年から1960年代の地球にやってきた、誘拐怪人ケムール人が登場。50年以上前に制作された、そのショッキングかつ愛すべき姿は必見です！コロナ禍の今だからこそ、空想し創造することの自由や楽しさにあふれた世界を味わってみませんか？ 文・秦泉寺なほ(当館企画事業課)



©円谷プロ

### 大林監督作品について

大林宣彦監督は、幼少より家庭用活動写真機で創意工夫して遊び、6歳にして手書きアニメーションを作ったという映画の申し子。8ミリで自主製作映画を撮影し、有料で公開しようとした日本映画界のパイオニアです。時代は8ミリから16ミリへと変わり、その頃作ったのが日本のカルト映画の草分けといわれる「ÉMOTION＝伝説の午後・いつか見たドラキュラ」(66年)。そして日本にCMディレクターという存在がまだなかった60年代からCM界で大活躍し、日本で初めてハリウッドスター、チャールズ・ブロンソンを起用したマンダムCMが大ヒット。以後次々と伝説のCMを作り続け、77年「HOUSE」で商業映画初監督。助監督経験がない異業種出身者が商業映画に進出するという流れを作り、日本映画を変えた、常に新しい映像を作り続けた監督でした。 文・浜口眞吾(当館企画事業課課長補佐)



「可愛い悪魔」(監督:大林宣彦)©円谷プロ

### 新しい仲間紹介

4月に採用されたホール事業担当の折田です。これまでホールが創作してきた数々の素晴らしい作品に惹かれ、ここで舞台を創る喜びに胸を躍らせて高知に移住しました。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降美術館は2度休館し(現在は開館)、ホール事業も中止や延期が続いています。劇場法では、劇場は文化芸術の創造の場のみならず、地域コミュニティの人々が集う「新しい広場」である、と謳われています。「人が集うこと」がリスクとなる今、集う場である劇場に何ができるかを模索する日々です。ホールにお客様が再び集い、客席に拍手が響く日を心から待ち望んでいます。あと少し辛抱し、夏にお会いしましょう。 文・折田彩(当館企画事業課)

### ピーピング・トム「マザー」関連企画報告

#### ドキュメンタリー映画「サード・アクト」無料上映会

◎日時：2020年2月15日(土)～18日(火) ◎会場：シアタールーム ◎入場者数：106名

3月のピーピング・トム公演の1ヶ月前、初来高の同ダンスカンパニーの作品紹介と現地シニアキャストの募集告知を兼ねて、「マザー」を含む家族三部作の舞台と舞台裏の私生活を追ったドキュメンタリーを上映しました。“古いゆくこと”をテーマにしており、映画に登場するカンパニーメンバーやシニアキャストが口にしたのは、歳を重ねる上で大切なのは、好奇心であるということでした。前作「ファーザー」で父親役を好演するレオさんの本業は画家。ピーピング・トム設立時からメンバーの愛娘ユルディケさんに現場へ連れられるうち、今では俳優としても200公演以上をこなすまでになりました。「ファーザー」では介護施設へ連行される父親を演ずる一方、自宅では愛妻を介護する日々。出演者らの日常が姿を変えて舞台に現れる、記録映画だからこそ気づく人生の一幕です。ツアー中80歳を迎えたレオさんを祝福する多世代・多国籍のメンバーの姿は、まるでひとつの大家族。これからみずと僕らの友人、仲間であってください、という息子役シモンさんの祝辞はしみじみ心を打つものがありました。

文・松本千鶴(当館企画事業課主幹)

※本公演は中止を余儀なくされましたが、多数のキャスト応募に感謝し、チケット払い戻しの際には激励のお言葉も頂戴しました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。



ピーピング・トム「ファーザー」父親役のレオさん  
©Herman Sorgeloos

### 思い出の企画

## 館長寄稿 劇団維新派公演「チャンチャン☆オペラ 少年街」①

私が高知県立美術館のホール担当として、最初に手掛けた公演が1994年11月6日当館の開館1周年を記念した劇団維新派公演「チャンチャン☆オペラ 少年街」であった。京都の大学時代の一時期、京都市内で催されたアンガラ映画や実験映画、自主製作映画の上映会にくまなく顔を出し、テント小屋や小さなスペースで行われていたアンガラ演劇には大阪まで足を延ばしていた。当時間西には、現在朝日新聞朝刊で4コマ漫画を連載しているいしいひさいちが「バイトくん」という漫画を掲載していた『プレイガイドジャーナル』という個性的な情報誌が存在しており、同誌で日本維新派(87年に維新派に改名)もチェックしていたが見る機会を選していた。94年6月頃京都での公演を見下して、斬新でスペクタキュラーな演出から当館の公演にふさわしいと思い、当時の鍵岡正謹館長に維新派の公演を実施したいと相談したところ、「維新派はだめだ」と言われ、代わりに目の前でダムタイプに電話されたことは強く印象に残っている。幸い電話がつかぬが維新派の公演は実現できたが、鍵岡館長は舞台での泥酔、セックス、排せつなど以前の過激な維新派の姿を知っていたからその反対だった。90年代以降はすっかりスタイルが変わっており、プレートでは主宰の松本雄吉氏が「若い子たちが一生懸命演じるので、良かったら拍手してください」と挨拶し、シーンごとに万雷の拍手が起こった。鍵岡館長から「良かったじゃないか」と言ってもらい、それ以降自由に企画できるきっかけになった公演だった。(つづく) 文・藤田直義(当館館長)

